

◎第 33 回公演 『真・マジンガルーダ』 (作・豹藤貴之とダイナマイト・プロ)

Ver. 2.0 3月21日 久米南町文化センター (岡山県高等学校演劇フェスティバル)

Ver. 2.1 4月25日 岡山白陵体育館

Ver. 2.2 6月13日 天神山文化プラザ (岡山B地区実験劇場)

2008年に31期生を中心にした初演が『マジンガルーダ』、2011年に34期生を中心にした再演が『真・マジンガルーダ』、今回が『真』のバージョン2となります。◆過去2回の上演では、主人公「さやか」と、「大事故の結果、巨大ロボットに脳を移植した状態で生き永らえている親友」との友情物語でしたが、「Ver. 2.0」では『マジンガルーダ』の役を男優が演じ、ほのかな恋物語に代えました。◆ところが「2.0」を上演した直後に男優が突如退団、役者自体の数が足りなくなってしまい、「あとひと月」のタイミで、「ロボットの設定を女性に戻して友情物語にする」「ロボットとさやかの掛け合いは全てさやかの一人芝居に科白を書き直す」「ロボットの姿は見せずに全て役者の目線で表現する」という減茶苦茶な改編が「Ver. 2.1」以降にはなされています。

♣てづくり劇場 『犬を知りませんか』 作・加藤のりや

9月5日 岡山白陵大教室Ⅱ、9月26日 天神山文化プラザ

高校生部員の数が3名となってしまい、3年ぶりにひとり芝居で地区大会に臨みました。大教室で文化発表会の公演をやるのは2年目ですが、約30分の小品ゆえ、役者を変えて一日5ステージ行うことができました。

部員不足による活動の縮小で、この年は草創期以来の「1年2作品」になってしまいました。